学校番号	3003

令和２年度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	デザイン技術	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	高等学校用デザイン技術　（文部科学省／海文堂出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

デザイン技術は、デザイン用具の用法、色彩や構成についての基礎知識に基づき、創造的かつ計画的にデザインする態度を身につけ、コンクール等に応募することで、デザインを通した社会との関わりや必要性について理解することが目標です。実習を通して観察力を養い、違いを理解し、自らの目を通して、的確に情報を集めることを学び、デザイン論などの座学や工業デザイン実習で学んだことを活用し、学習の効果を高めるよう工夫しましょう。

2　学習の到達目標

デザイン学習の中核となるデザインに関する学科の「実習」の学習と関連を持たせながら、ポスターやパンフレット等を制作するための効果的な表現技法や思考プロセスについて学習し、その応用として、環境保護や販売促進を促すポスターなどのコンクールに実際に応募し実践力が身につくよう指導する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	デザイン技術に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	デザイン技術に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	デザイン技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	デザイン技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述、作品制作、自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述、作品制作、レポート、自己評価・相互評価等	学習状況の観察 作品制作、自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述、作品制作、自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

ローテーション	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	デザイン企画・グラフィックデザイン	・デザイナーに求められる力 ・アイデアの出し方・まとめ方について ・表現の技法	◎ ○	 ○ ○	 ◎	○ ○ ◎	a:デザインの各領域についての概観と企画の仕方について関連に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:アイデアの出し方やまとめ方によってものづくりに与える影響を理解し、問題解決に向けてアイデアを提案する能力が身に付いている。 c:デザインの各領域についての概観と企画の仕方について、基礎的・基本的な技術を身に付けるとともに、手順（工程）を合理的に計画できる技能を身に付けている。 d: デザインの各領域についての概観と企画の仕方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会においてデザインがものづくりに果たす意義や役割を理解している。	学習状況の観察 ワークシートの記述、作品制作、レポート、 自己評価・相互評価 等
後期	デザインと創造・グラフィックデザイン・プロダクトデザインについて	・発想のプロセスについて ・ポスターを中心に、グラフィックデザインの構成要素・制作の流れとポイントについて ・プロダクトデザインにおける機能と造形について ・総合的計画力	○ ○ ○	◎ ○ ◎	 ○	○ ◎ ◎ ○	a:それぞれのデザイン領域について関連に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 b: それぞれのデザイン領域について製品の企画からプレゼンテーションにいたるまでに与える影響を判断し、問題解決に向けて自ら条件設定する能力が身に付いている。 c: それぞれのデザイン領域について基礎的・基本的な技術を身に付けるとともに、製品の企画からプレゼンテーションにいたるまでの工程を合理的に計画できる技能を身に付けている。 d: それぞれのデザイン領域について基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会におけるデザインがものづくりに果たす意義や役割を理解している。	学習状況の観察 ワークシートの記述、作品制作、レポート、 自己評価・相互評価 等

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。